

かけはし

〒669-2321

兵庫県篠山市黒岡5番地

TEL 079-552-1181 (代表)

FAX 079-552-5343 (代表)

〈理念〉

兵庫医科大学ささやま医療センターは、安全で質の高い医療を通じて、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

〈基本方針〉

- 患者の立場に立ったチーム医療の実践
- 人間性豊かで、優れた医療人の育成
- 科学的な根拠に基づく医療の実践
- 健康増進活動による地域の保健・福祉の推進
- 地域の医療機関との円滑な連携

〈患者さんの権利〉

- 良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 病気や治療について、わかりやすく十分な説明を受けることができます。
- 診療内容をご自身で選択することができます。
- 診療内容について、他の医師の意見を聞くことができます。
- ご自身の診療情報を入力することができます。
- いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
- プライバシーは常に保護・尊重されます。
- 患者さんの権利に関する「リスボン宣言」を尊重し、患者さん本位の医療を実現することができます。

◆病院長就任のご挨拶 ～地域に貢献し、地域から信頼される病院に向けて～◆



本年11月5日付で、兵庫医科大学ささやま医療センター病院長に就任いたしました。私は、西宮市にある兵庫医科大学病院病院長を最近5年間務め、急性期医療の充実に努めてまいりました。また、学校法人 兵庫医科大学の副理事長、病院事業管理者としてささやま医療センターの運営にも関与してきました。その経験を活かして西宮本院との密接な関係をさらに深めることにより、丹波・篠山地域に必要なプライマリ・ケアと高度医療を行うことで、さらに地域に貢献し、地域の皆さまから信頼される病院にするため努力する所存です。

地域の診療所では十分に対応できない高度医療や救急医療に対応するため、これまでの内科系診療科を総合診療科、循環器科、消化器科、呼吸器科に再編成し、当直も内科系、外科系医師がペアで行い、発熱、腹痛、嘔吐、下痢、動悸、咳、めまい、怪我などのプライマリ・ケアを実践できる体制を整備いたしました。また、西宮本院の教授による神経内科・糖尿病科・精神科などの専門外来や内視鏡手術、腹腔鏡手術などの先進医療も実現できる体制を整えています。どうしてもささやま医療センターで対応できない重度の疾病の場合には、西宮本院にて集中治療を行うことのできる太いパイプも構築しています。

一方、同じ敷地内には同一法人が運営するささやま老人保健施設、ささやま居宅介護支援事業所があり、院内リハビリテーションと共に、急性期を過ぎた患者さんの回復、療養を促進し、ご自宅に帰り社会復帰していただけるようにシームレスな地域包括ケアを心がけています。

地域に貢献し、地域に信頼される兵庫医科大学ささやま医療センターを目指し、職員一同努力いたしますので、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

ささやま医療センター病院長 太城 力良

◆病院長退任のご挨拶◆



秋も深まり、丹波篠山に象徴的な「雲海」の季節となりました。市民の皆さまには、兵庫医科大学ささやま医療センターの成長と発展をお見守りいただき感謝申し上げます。私が、当時の篠山病院の病院長に着任してから6年が経ち、本年11月4日をもって任期満了、病院長を退任いたしました。ルネッサンス文化を开花させたフィレンツェの市花が「ユリ」であり、篠山の市花が「ささゆり」であったことから、私は患者さまを第一に考えチーム医療によってプロの医療を提供する「篠山ルネッサンス」を掲げました。当時、米国・オバマ大統領就任と同時期でもあり、彼が演説で話していた言葉を拝借し、「Yes, We can」を合言葉として、地域医療を推進してまいりました。当センターがどのような病院に育ってきたかについては、市民の皆さまの評価を待ちたいと思いますが、平成25年9月の「病院機能評価」の受

審、そして合格の結果は、少しずつではありますが成長してきている証だと考えています。ボランティアの皆さま、市民の皆さま、そして当センター教職員のご支援に感謝し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

地域医療へのますますの貢献を実現すべく、新病院長のもとに新しい一歩を踏み出しています。私自身は病院長退任後も、今しばらく当センターでの勤務のご許可をいただいておりますので、微力ながら地域医療の一端を担えるよう努力する所存です。6年間、未熟な病院長を支え続けていただき、本当にありがとうございました。

兵庫医科大学地域総合医療学
主任教授 福田 能啓



◆市民ふれあい健康教室の開催◆

地域の中核病院として、患者さんやそのご家族そして地域住民の皆さまに、最新の医療情報の提供や健康への理解を深めていただくため、「市民ふれあい健康教室」を企画し、平成26年11月4日（火）16時から1階の病院玄関ホールにて第1回目を開催しました。

今回は「薬の正しい使い方」というテーマで、講師は薬剤室の畑中主任薬剤師が担当し、先発医薬品と後発医薬品の違い、薬の服用の仕方や「おくすり手帳」活用の推奨など、一般の方にもわかりやすい講演内容で、講演終了後も聴講者から質問が出る等、とても良い雰囲気の講演会となりました。

本年度は、あと3回開催する予定ですので、より多くのみなさんに是非ともご参加いただけるよう広報活動を進めていきます。



◆西日本旅客鉄道株式会社主催 列車事故お客様救済合同訓練◆

平成26年11月10日（月）、西日本旅客鉄道株式会社主催による「列車事故お客様救済合同訓練」が実施されました。ささやま医療センターから医師3名、看護師2名、事務員2名が参加した他、篠山市役所、篠山警察署、篠山消防本部などから約100名が参加しました。また、兵庫医科大学病院からも救命救急センターの久保山副センター長をはじめ医師2名、看護師3名、救命救急士1名にご協力をいただきました。JR福知山線の古市・南矢代間「南矢代踏切」において立ち往生していた大型トラックに快速電車が衝突し、多数の負傷者が車内に閉じ込められたという想定で、篠山地区の関係機関が綿密に連携を取り、人命を最優先にした迅速な初動対応及び対処能力の向上を図ることを目的に訓練が行われました。ささやま医療センターの役割は救護者テント内での重・中傷患者に対する応急処置及び処置後の病院への搬送指示でした。次々と患者が運ばれて来る中、適切な処置が行われる等、実践を想定した緊張感が参加者や見学者にも伝わる訓練でした。

今後も地域の災害訓練に積極的に参加する予定です。



◆マンモグラフィ機器の紹介◆



平成26年2月から、新しいマンモグラフィ撮影装置とマンモグラフィ専用画像診断ワークステーションを導入しました。

新しいマンモグラフィ撮影装置では、以前の装置と比較して被ばく低減を実現しつつ、鮮明な画像を提供することができます。また、圧迫についても、乳頭に向かって薄くなる乳房の形状に合わせ、圧迫板に角度が付き乳房を包み込むように圧迫するため、より均一に圧迫できます。さらに、圧迫板が以前より柔らかい素材で出来ており、痛みの少ない検査が可能となりました。

撮影した画像についても、以前はフィルムで拡大鏡を用いて画像を読影していましたが、マンモグラフィ専用画像診断ワークステーションの導入により、高解像度モニターで必要に応じた拡大観察や過去画像との比較など、多彩な表示ができるため、よりよい環境で診察に臨めるようになりました。

また、読影業務支援システム（CAD）の導入も行い、精度の高い検査が期待できるようになりました。

新しい装置の導入に合わせ、部屋のレイアウトも大幅に変更し、撮影する技師と受診される方の距離が近くなり、乳房の圧迫から、撮影までの時間も短縮されました。

ささやま医療センターには、日本乳がん検診精度管理中央機構が認定するマンモグラフィ撮影認定技師の資格を有する女性技師が2名おり、同資格者が撮影させていただきます。乳がん検診を受けるなら、ぜひ当センターにお越しください。



◆新任の医師紹介◆

今後、新任医師の紹介は、ささやま医療センターホームページにてご紹介いたします。

URL <http://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>